

寄付者の皆様からのメッセージ
～伊藤隆敏先生との思い出・エピソード～
(1)

川口大司様

TCERの会計担当理事や公共政策大学院の院長といった行政的な仕事を伊藤先生の後任として担当してきました。伊藤先生が残されたルールや文書を通じて、伊藤先生がこれらの仕事に熱意をもって取り組まれてきたことを知る機会が数多くありました。伊藤先生が残されたこれらの功績は後続のものにとってかけがえのない財産だと思います。また、これら残されたものを時代に合わせて変革していくことも、伊藤先生が希望されたことではないかと思っています。伊藤先生、本当にどうもありがとうございました。

N.N様

伊藤隆敏先生には国際学会での発表の機会を度々いただきました。そして英語論文で発表するという事に離れていた私に対して、英語での論文作成を強く励ましてくださいました。先生の温かいサポートを忘れることはできません。

長岡貞男様

伊藤隆敏先生には、NBERとCEPRとのTRIOコンフェレンス、そしてNBERのEast-Asia Projectへ参加をさせて頂き、欧米の学者との交流を深め、学び、切磋琢磨をする多くの機会を頂きました。Stanford大学やArizona大学でのセミナーでの先生の姿が昨日のように思い出されます。長い間お世話になり、ありがとうございました。

N.N様

伊藤先生のご指導のもと、東大の公共政策大学院で大学院の国際化のお仕事を一緒にさせていただきました。よく冗談を言い合っていました。とても暖かみのある先生でしたが、いつも私のことを雨に濡れた迷い猫のようだと、ひどい言われ方をしていたのですが、ある時、「N.Nさんと出会って公共に入れたことは私の人生で二番目にラッキーなことだった」と言ってくださったのがとても嬉しい記憶として残っています。もちろん、一番ラッキーだったことは、奥様に会ったことだと嬉しそうに仰っていました。

K.F様

The Japanese Economy (MIT Press)を教材として米国で日本経済論を教えた際、明晰な分析と知識の幅広さに圧倒されました。日本経済の現状・動向を世界に知らしめるうえで、伊藤先生の存在は非常に大きかったと痛感しています。急逝が惜しまれますが、心からご冥福をお祈りいたします。

匿名希望様

賜った御指導に心より御礼申し上げます。

寄付者の皆様からのメッセージ
～伊藤隆敏先生との思い出・エピソード～
(2)

井伊雅子様

伊藤先生との出会いは、ワシントンD.C.でした。世界銀行の調査局で途上国の医療について研究していた私に、先生は「日本の制度も学びなさい。日本の失敗にこそ、途上国の制度設計に活かせる教訓がある」と説いてくださいました。この一言がなければ、今の私の研究テーマはなかったかもしれません。

その後、私がNHKの経営委員を務めた折にも、公共放送の在り方について鋭くも温かいアドバイスをいただきました。先生は、どんなに複雑な社会課題も、経済学の知見で見事に紐解いてくださいました。

匿名希望様

経済財政諮問会議をはじめ大変お世話になりました。

有村俊秀様

ミネソタ大学時代に、伊藤先生が開講されたJapanese Economyの後継講義を担当させて頂きました。

それまであまり面識はなかったのですが、この6年は、カーボンニュートラル関連で様々なお声を頂き、仕事で一緒させて頂きました。ハンドブックの原稿を提出したのに、お返事が頂けずに心配しておりました。ご冥福を折り申し上げます。

絹川直良様

国際通貨研究所在籍中、特に、2000年～2007年にご指導をいただきました。アジア通貨危機の再発防止関連で、さまざまな提案を出す流れが生まれる中で、私の在籍中は、ASEAN事務局よりの委託でのリサーチグループのヘッドを複数年連続で務めていただき、日本でのリサーチグループ組成と研究会開催、東アジア各国より参加するシンクタンクとの意見交換、政策提言をASEAN+3のDeputies会合に提示するところまで、他の諸先生ともども、国際通貨研究所の担当研究員をご指導をいただきました。海外のシンクタンクを短時間で説得し、合意事項のサマリーを自らさっと作成されて政策提言につないでいくところを間近にみて、教えられることがとても多かったです。マーケットでの実務経験を持つ専門家の知見を引き出されるところも見事でした。

伊藤恵子様

TRIOコンファレンスやEASEに何度か参加させていただいたことに、特に感謝しています。このような国際カンファレンスの継続とさらなる発展に向けて、東京経済研究センターさんには引き続きのご尽力をお願いしたいです。

寄付者の皆様からのメッセージ ～伊藤隆敏先生との思い出・エピソード～ (3)

匿名希望様

伊藤隆敏先生のご逝去、残念でなりません。

日米双方で教鞭を執り、国際的な学術研究も続ける一方、内外の政策担当者にも名前が轟いて厚い信頼を集められておられ、学界と政策の橋渡しに尽力されて、「一流の研究と高度な実践は両立できる」ことを体現したお手本のような方でした。

「Journal論文にならないから」と普通なら敬遠するような仕事も驚くほど幅広く率先してこなされていて、微力ながらいくつかお手伝いさせていただけたのは救われた気持ちがあります。東大では公共政策大学院の発展も牽引され、目に見えるものでいうと新棟建設にも先生のご尽力があったときいています。

若手の育成や多様性推進も陰に陽に細やかに支えられ、いったい伊藤先生は何人いるの? という「スーパー」な存在でした（安田さんのリストでも四つ星です）。でも、いつもなんだか楽しげな感じで、その生き方は憧れだったと感じています。

30年前の夏、大塚啓二郎先生のDCのご自宅にお伺いしたとき、当時IMFにいらっしゃった伊藤先生に初めてお会いしました。私は大学院生、世銀インターンをやっていました（IFPRIインターンの時だったか）。その後、同じくIMFにおられた、当時は歌うことが大好きでおられた大垣先生がさっそく「カラオケに行きたい」という話で、伊藤先生と実際ご一緒できたのかどうか記憶が定かではないのですが、とにかくその計画が立ち上がった時に「カラオケ後、皆が安全に帰宅できるのか」をまずは気にされていたのを覚えています。

日本の経済学界にとっては計り知れない損失で、ぽっかりと大きな穴があいてしまいました。残念でなりません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

尾崎大輔様

弊社の発行する雑誌へのご寄稿・ご登壇や書籍のご執筆にて、大変お世話になりました。誠にありがとうございますございました。

今後も経済学会からの重要な発信をいただける場として、環境を整備・維持していきたいと思っております。

関麻衣様

東京大学公共政策大学院の第一期生としてPhD留学の後押しをしていただきました。在学中に、学期末の懇親会を企画し先生方をご招待したところ、カラオケで北海道出身のGlaxoを歌って下さったのを鮮明に覚えています。修了後も、隆敏先生がコロンビア大学にご講演にいらっしゃると聞きつけた際には、当時アメリカに留学していた同窓生がニューヨークに大集合しました。学生に慕われた素晴らしい教授であり、メンターでした。